



## 起業のすすめ

●  
**佐藤幸蔵** Kozo SATO

(株)ナノイノベーション研究所 代表取締役社長



最近、犬の散歩で公園に行くとかくさんのお年寄りに出会う。散歩やジョギングをする人、仲間と談笑する人、ベンチに座ってぼんやりしている人、人それぞれである。ただ、話をしてみると、大部分の方が仕事に就くことなく、年金生活をしているようである。

筆者はこれまで約40年間、有機化学を業としてきた。その間、産官学の多くの方々と接してきたが、日本の有機化学者のレベルは非常に高く、優れた能力と高い見識をお持ちの方がたくさんいることを実感して来た。しかし、退職後、その経験と能力を活かしている方はごく少数のように思える。大学の教授でも退職後に新たな職を探すのにかなりご苦労をされているとよく聞く。企業でも60歳の退職の前に役職を解かれて収入が減り、さらに定年が65歳まで延長されたとは言っても実質的な賃金が大幅に目減りするものが常である。それまでに培った能力と経験が正当に評価されないのが実情である。とても残念に思う。

すでに団塊の世代が定年を迎えたが、今後、ますます高齢化が進み、その高齢者を支える若者が減少するので、日本の社会・経済は必ず深刻な状況に遭遇する。年金支給が70歳に引き上げられるのは必定であり、70歳まで働かねばならなくなるだろう。筆者は65歳まで企業で働き、その後、公的助成を受けて起業した。調べると様々な公的助成制度があり、自己資金がなくても起業することができる。また成功しなかった場合に負債を追うリスクを回避することも可能である。起業の仕方にもいろいろあり、会社を設立するだけでなく、自宅を利用して小さな事業を始めたり、ご自身の専門性を活かして技術アドバイザーになったりコンサルティング業や調査業を行うこともできる。意欲さえあれば、自分の得意な分野で仕事に就くことが十分可能である。

米国ではベンチャーキャピタルによる投資活動が活発である。大企業が自らイノベーションを起こすことが難しく、ベンチャー企業に投資する方が効率的なことを知ったからである。日本の大企業もベンチャー企業に投資することを積極的に模索し始めている。ただし、2015年度でのベンチャー企業への投資額は、米国で約7兆円、中国でも3兆円弱であるのに対し、日本はわずか1000億円程度であり、甚だ貧弱である。最近、国内の金融機関はカネ余り状態かつマイナス金利のため、ベンチャーキャピタルへの出資に熱心である。また、事業会社もベンチャー投資のために自らコーポレートベンチャーキャピタルを設立するケースが増えている。今後、それらのベンチャーキャピタルは有望なベンチャー企業に積極的に投資するはずである。IT分野では意欲のある若者が積極的に起業しているが、定年を迎えた世代でも起業はできるのである。優秀な化学者がその経験を活かし高い専門性を発揮すれば、差別性のあるイノベティブな商品を開発することもできる。モノ作りをしなくても様々なやり方で社会に関わり、社会に役立てると思う。

サミュエル・ウルマンの「青春の詩」には、「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる」とある。定年を迎えた世代の社会貢献、これはまさに社会の要請だと考える。一度しかない人生、ポジティブ思考で起業にチャレンジしてみてはどうか。